

地域と家庭と学校が一つになって子どもを育む…それが“チーム七小”です！



くさぶえ

福生市立福生第七小学校
令和7年度 学校だより

福生第七小学校
ホームページ
URL



<https://fussa-7e.hs.fussa.school/>

所在地 福生市北田園一丁目1番地1

発行責任者 校長 菅野 恭子

令和7年10月1日 発行

本当の楽しさを感じて

校長 菅野 恭子

心地よい秋風が吹き、秋の虫の音が美しく聴こえる季節となりました。空気が澄んで、太陽の光が様々なものの美しさを際立たせる秋。過ごしやすい季節となることから、好きなことや興味があるものにじっくり時間をかけて取り組みたいものです。

子どもたちは、全校朝会で話をしている「何でだろうと考えて」を意識し、日々取り組んでいることの意義を考え継続することの大切さを理解し、さらに現状をより良くするために改善策を考えて行動しています。

「本当の楽しさを感じて」

9月16日・17日に、5年生は名栗げんきプラザへ宿泊学習に行ってきました。出発式で私が話したことは、「本当の楽しさを意識して」ということです。宿泊学習では、日常の学校生活では体験できない様々な経験をしますので、ドキドキワクワクするような「楽しさ」があります。そこで、もう一步意識を高めて、「本当の楽しさ」を考えさせました。友達と一泊二日寝食を共にすると、自分と違う面がたくさん見えてきます。みんなが気持ちよく過ごし、課題を達成するためには、声をかけたり、気を配ったり、我慢したり、自分の仕事を忘れずに実行したりと大変なことがたくさんあります。しかし、それができたとき、「できた」「やりきった」という達成感や充実感が得られ、考え方も広く深くなってきます。

名栗から帰って来たとき、大変嬉しい報告がありました。5年生はよく考えて行動し、共に協力する姿が素晴らしかったということです。例えば、カレー作りの片付けや2日目の退出に伴う部屋の片付けなど、毎年どの学校も苦戦することを大変美しく仕上げ、宿舎の方々にたくさん褒めていただいたとのこと。帰校式の際の5年生の表情も一段と真剣味が増し、話を聞く姿に自信がみなぎっていました。

これは、宿泊学習に限らず、日々の学校生活でも言えることです。一見、「大変だな」「面倒だな」と思うことでも「挑戦していることの意義を理解して取り組む」、その過程を通して「得られた考え方を大事にする」、やりきることで「自分の成長に気付く」等、挑戦する前の自分とは見方・考え方が変わってきます。2学期は大きな行事もありますので、この成長を実感できる「本当の楽しさ」を意識して学校生活を送ることができるようにしていきます。

【道徳授業地区公開講座 ～ 挑戦することや苦難を乗り越えて得られたことから ～】

道徳授業地区公開講座は、家庭及び地域社会、そして学校が一体となって「豊かな心」を育むとともに、小・中学校等における道徳教育の充実を図ることを目的として都内公立小・中学校で実施しています。

本校では、今年度、**2004年のアテネオリンピック競泳選手である高橋友喜子氏**をお招きし、挑戦することや苦難を乗り越えて得られたことなどについて体験談を交えてお話いただきます。

当日の前半は、体育館にて5・6年生と参観の保護者、地域の方を対象に講演をしていただき、後半は、5・6年生が教室に戻り、講師の高橋氏と保護者、地域の方々と質疑応答・意見交流会を行います。特に、後半では子どもが挑戦するときや苦難と向き合っているときの保護者、大人としての支え方などの話題で交流できることを期待しています。

元オリンピックが実体験を語り、多感な時期の経験をどう乗り越えたか、共に考える貴重な機会です。様々な質問等に体験を通してお答えいただけますので、お誘いあわせの上、是非ご参観ください。

日 時： 令和8年1月31日（土）
講 師： 2004年 アテネオリンピック
水泳200mバタフライ日本代表 高橋 友喜子 氏
会 場： 福生市立福生第七小学校 体育館
流 れ： 3校時 5・6年生への講演＋子ども達からの質疑応答
（保護者、地域の方参観可能）
4校時 保護者、地域の方との意見交流会（質疑応答含む）

